

医療系部会（ディスカッション）

日時：2021年8月18日（水曜日） 17:15～18:45

会場：第1会場

コロナ禍における医療系大学・専門学校における

講義・演習・実習の工夫について

（特にオンラインでの講義、自習、演習の工夫について討論する）

プログラム

司会：岡田 弥生

1. 趣旨説明

未だに収束しないコロナ禍で、卒後国家試験を控えている医療系大学・専門学校では、卒業までに国家試験に合格できる学力を身につけるために、より工夫された講義・実習・演習が必要となっている。しかし、慣れないオンライン講義・演習・実習への対処、特に臨床系の実習などでは対面実習ができないことからその対応に四苦八苦し、教員個々で試行錯誤しているのが現状である。学生の反応を見ながら講義や実習の方針を立てていくことが要求されるため、日々時間に追われてしまい、教員同士が教育法の工夫などに関する情報交換する場もなくなっている現状は、決して良い状況とは言えない。

そこで、本年度は特に発表という形式にはせず、参加できた教員間で現状を報告し合い、参加者それぞれの医療系大学・専門学校の講義に対する工夫や現状について話し合える場を設けることとした。学会期間中に参加できた学会員の間で自由に討論し、お互いの講義・実習・演習などに活かせる意見交換ができればと考えている。医療系部会の皆様で、気楽に話し合いの場が設けられればと考えているので、積極的な参加を期待する。

2. 話題提供

医療系部会員全員における討論形式とする。資料を提示して説明、なども歓迎する。

3. 質疑応答

参加者全員で自由に討論・質疑応答を行う。

4. まとめ

討論内容を司会の岡田がまとめ、後日医療系部会内の ml でその内容を報告する。

5. 総会

ICT 活用教育部会（ワークショップ）

日時：2021年8月18日（水曜日） 17:15～18:45

会場：第2会場

遠隔授業の強みを活かす授業設計について

プログラム

司会：仲道 雅輝（愛媛大学）

1. 趣旨説明

新型コロナウイルス感染症の拡大により、遠隔授業が主要な授業形態のひとつとして大学教育に浸透しはじめています。

遠隔授業を、感染防止策としての緊急代替手段から、大学教育の質を高める効果的な授業方法へと継続・発展させるために知っておきたい授業設計上の留意点や課題設定のコツ、実践事例などを共有します。また、遠隔授業をより効果的・魅力的なものにするという共通のテーマのもと、参加者間でのディスカッションを行い、これからの大学教育の可能性について考える場としたいと考えています。

2. 話題提供

米満 潔（佐賀大学全学教育機構）

「佐賀大学における COVID-19 対策としてのオンライン授業化のための FD 活動と授業の実践」

小松川 浩（公立千歳科学技術大学理工学部）

「知識の定着から活用に至る連続的な学習過程での主体的な学びを促すオンライン活用型の授業設計」

3. 質疑応答・ディスカッション

学習支援部会（ワークショップ）

日時：2021年8月18日（水曜日） 17:15～18:45

会場：第3会場

非対面型の学修（習）支援を創出する

プログラム

司会：石毛 弓（大手前大学）

1. 趣旨説明

COVID-19の感染拡大にともない、2020年度には多様な教育機関で非対面型の学修が実施された。現在も、とくに大都市圏の多くの高等教育機関においてはなんらかのかたちで非対面型学修が継続されている。もちろん非対面型学修自体はCOVID-19の影響で始まったものではない。しかし従来との大きな違いは、いわゆるコロナ禍が予期しえない出来事だったという点だろう。たとえば最初からe-Learningで開講する予定の科目であれば、その手法に則った授業設計やカリキュラムを組み、かつ学生もオンラインによる学修であることを了承したうえで受講する。だが今回の非対面化は準備や計画があつてのものではなく、突然の事態に対して教育を止めないために組織や現場が尽力した結果である。これを別の面からみると、教育する側に非対面型学修への用意が整っていなかったともいえる。そのため、いまもまだ学修やその支援方法を模索したり悩んだりといったケースが散見される。

本企画では、この状況を踏まえて非対面型学修の中でもとくにオンラインによる学修支援方法をテーマにすえ、参加型ワークショップを開催する。企画参加者が、自身が関わる非対面型学修や学修支援、あるいはコロナ禍における教育等について意見を交換することを計画している。今年度の全国大会はオンラインでの開催のため、参加者はまさにオンライン受講者の立場を体験することになる。

本企画の目的は、参加者がそれぞれの環境における非対面型の学修支援について再考するきっかけをつくることである。また部会の活性化につなげることができるよう、本企画の成果物は学会のホームページにアップロードすることを予定している。

2. 話題提供とワークショップ

杉森 公一（北陸大学高等教育推進センター センター長・教授）

杉森公一先生が話題提供者およびワークショップのファシリテーションを務められる。杉森先生は、教育開発を専門とし、効果的な授業設計などを通じた教育支援に携わっておられる。アクティブラーニングや反転授業、高大接続教育といった教育方法の研究と同時に、大学教員向けの研修も手がけられる。今回の企画では、Zoomを利用して学修支援者育成についてのワークショップを開催する。

学習言語部会（ラウンドテーブル）

日時：2021年8月18日（水） 17:15～18:15

会場：第4会場

「分からない」ということをいかに言語表出するか （学びの過程を自覚する）

プログラム

司会：馬場 眞知子（東京農工大学 名誉教授）

1. 趣旨説明

たなか よしこ（日本工業大学）

学生満足度、学生に分かりやすい授業をすることを求められている社会状況である今日の課題は、その分かりやすさが生み出す「わかりやすさ」である。池上彰著「わかりやすさの罠」、武田 砂鉄著「わかりやすさの罪」など、わかりやすい社会で生み出される市民感情が、ポピュリズムへの潮流となっていることも否定できない。大学教育がよき市民社会を形成する一員をなす学生一人ひとりへの最後の教育機関として機能するためにも、「わからないこと」と対峙し、自覚することを教育の中に持たせることが、よりよき社会への豊かさではないだろうか。「わからないこと」を許容し、「わからないこと」がある前提で、社会の課題に取り組むことの必要性を改めて問いたい。

2. 話題提供

志手 和行（東京福祉大学）

「言語教育から「分からない」をどのように捉えるか」

河住 有希子（日本工業大学）

『「分からない」ことがどう認識されているか』

野崎 浩成（愛知教育大学）

「卒業研究を通じて「分からない」ということを「学び」に結びつける」

3. 質疑応答

予稿集の段階での質問がある方から事前のご意見をいただければ幸いです。

お待ちしております。

連絡先：gkshkbn@gmail.com（学習言語部会）

日本語部会（パネルディスカッション）

日時：2021年8月20日（金） 14:25～15:55

会場：第1会場

日本人大学生の読解力を考える

プログラム

司会：佐藤 尚子（千葉大学）

1. 趣旨説明

学生たちの日本語力が低下しているという指摘から、多くの大学で日本語の授業が行われるようになった。しかし、その授業はレポートの作成など「書く」能力を養成するものが多い。「書く」能力の養成を行う中で、うまく書けないのは「読む」能力が不足しているからではないかという疑問が湧くことがしばしばある。本部会では、日本人大学生の「読む」能力について検討したい。

2. 発表

塚越 久美子（北海道科学大学）

高校における「読むこと」の指導について（アンケート調査の結果より）

田島 ますみ（中央学院大学）

文章全体で何を言いたいのかをとらえる難しさ（読解テストにおける要旨把握問題の正答率を中心に）

山方 純子（神田外語大学）

大学生による読解方略の使用傾向（予備調査の結果から）

3. 質疑応答・議論

学校教育部会（ラウンドテーブル）

日時：2021年8月20日（金） 14：10～15：40

会場：第2会場

対面授業 VS オンライン授業

プログラム

司会：塩島 翔（日本体育大学）

1. 趣旨説明

新型コロナウイルスによって、2020年・2021年度は、オンライン授業を行うことを強いられた。オンライン授業によって、学生が実家を離れ下宿することなく、地方で大学の授業を受けることができるなどのメリットもあった。

しかし、Youtube などを使ったオンデマンド型の授業や、Zoom などを使ったビデオ会議システムを使用した配信型のオンライン授業では、受講中の学生の様子をリアルタイムで確認できないなどのデメリットもあった。

対面授業の魅力を再発見し、オンライン授業ではできない指導内容・指導実践について、コロナ禍での授業実践を通して、対面授業だからこそ伝わったこと、オンライン授業だからこそ伝わったことなどを紹介したあと、コロナ禍の授業実践の情報交換を、登壇者・フロアーを含めて行う。

なお、2名程度による実践報告（15分程度）と聴講者との意見交換会（50分程度）を行ったのち、総会（15分程度）を開催する予定である。

2. 諸連絡

発表者の資料は、当日の Zoom のチャットを通して配布する予定。

3. 情報提供者（敬称略）

坂東実子（敬愛大学非常勤講師）

鷲北貴史（東京経済大学非常勤講師）

理数系部会（ラウンドテーブル）

日時：2021年8月20日（金） 14：10～15：40

会場：第3会場

大学初年次における数学的リテラシーの習得の現状・対策・課題

プログラム

司会：西 誠（金沢工業大学 基礎教育部）

1. 趣旨説明

高校までの学びの在り方、学習履歴の多様化に伴い、さまざまな学習意識と学力レベルの学生が入学している。このような現状において、入学した学生が大学での学習に対応できるように、大学ではさまざまな学習支援が必要となる。そして、理数系の科目についても、理系、文系を問わず、専門に応じた学習の修得が必要となる。そのため、各大学では大学において必要とされる理数系の基礎学力を修得するため、独自の科目の実践と学習支援が行われている。

加えて、昨年度からのコロナ禍によりこれまでのような学習支援では十分な対応できなくなり、各大学でさまざまな困難に直面するとともに、さまざまな取り組みが実施されている。

このような状況をふまえ、理数部会においては、コロナ禍の中で各大学がどのように学習支援を行い、数学的リテラシー習得のための工夫を行ない、成果を上げているかを話題提供いただくとともに、今後の学習支援に対する課題や対策について意見交換を行う。

なお、今回は参加者の自由な意見交換の場として、さまざまな観点から数学的リテラシーについて議論したい。

2. プログラム

- (1) コロナ禍における学習支援と数学的リテラシー習得に関する問題提起

西 誠（金沢工業大学）

- (2) 数学的リテラシーの習得と学習支援の現状について

参加者による初年次における数学的リテラシーの現状についての報告

- (3) ラウンドテーブルによる議論

コロナ禍において数学的リテラシーを如何に修得させるか

- (4) 議論のまとめ